

「医療機関における電波の安全利用管理に関するセミナー」を開催

総務省東海総合通信局(局長 長塩 義樹)は、令和2年11月14日(土)、じばさん三重(三重県四日市市)において、「東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会(会長 酒井 順哉:名城大学大学院都市情報学研究科教授)」との共催により、「医療機関における電波の安全利用管理に関するセミナー」を開催しました。

本セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Webによる聴講を主とし、Web50名、会場9名の方に参加していただきました。

医療機関において医用テレメータ、無線LAN(医療情報システム)、RFID(患者情報管理用タグ)といった電波利用機器が普及していますが、これら機器の電波管理が適切でない場合、医療機器に障害が発生するおそれがあります。当日は、医療機関内における電波管理について取りまとめられた「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き(平成28年4月)」の内容に基づき、総務省電波環境協議会医療推進委員会委員長でもある滋慶医療科学大学院大学特任教授 加納 隆 氏より、医療機関における電波の安全利用管理について、実例を交えてご講演いただきました。

医用テレメータについては、「受信アンテナの不適切な工事により病室内で電波が受信できない」「近隣の病院と同一のチャンネルを設定して混信している」「LED電球に交換したことにより雑音が増加する」といったケースがあることや、医用テレメータの送信機の電池切れが原因で医療事故につながることもありうることを挙げ、管理者による定期的な点検の重要性を指摘されました。

無線LANについては、医療情報等の電子カルテと一般利用者で周波数を共用すると、利用者の増加により途切れたり利用できない場合もあること、周波数を5GHz帯と2.4GHz帯で使い分けることで、良好な通信環境が構築できることを紹介されました。

セミナー後には、「ゲーム機・PC・オーディオなど様々な機器を複合的に使用した際、医療電波に干渉するノイズに発展するか？」など、多くの質問が出され、医療機関における電波の安全利用に対する関心の高さが伺えるセミナーとなりました。

次回は、令和3年1月23日(土)に名古屋市で開催の予定です。詳細は、東海総合通信局ホームページをご覧ください。URL : <https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/kohosiryo/2020/1222.html>



滋慶医療科学大学院大学 加納特任教授



セミナーの様子